

薩摩川内市立平佐西小学校 学校だより



1月号 おうち
棟の木



令和6年1月23日発行

<http://www.edu.satsumasendai.jp/hirasanishi-e/>

[【kyoutou@hirasanishi-e.edu.satsumasendai.jp】](mailto:kyoutou@hirasanishi-e.edu.satsumasendai.jp)

3学期、まとめの学期です

校長 新田 賢一



例年より少し長い冬休みが明けて、子供たちは3学期も元気に登校してきました。

1月1日は、心を痛める悲しい能登半島地震が起きました。
学校では、始業式の日、全員で黙祷を捧げました。

〔始業式の講話〕

地震の被害に遭われた方々の中には、今、この瞬間も、つらい思いをされている方がたくさんいます。ぜひ、そういう方のことを思いながら、自分にできることをがんばってください。

私たちが住んでいる日本は地震の多い国です。いつどこで地震が起きても不思議ではありません。今、皆さんが友達と楽しく生活できていることを「あたり前」だと思うのではなく、一日一日を感謝して生活してほしいと思います。そして、いつも「自分の命は自分で守る」ことを忘れないでください。

尊い命を失われた方々の御冥福をお祈りいたします。

さて、話は変わりますが、今から数十年前、子供の頃の私は、冬休みが大好きでした。

冬休みは、家族で大掃除をしたり、餅をついたりしました。私の実家は、年越そばを作るのが恒例行事で、大晦日は、そばを作る釜の前で火の世話をするのが私の役目でした。

正月は初詣。賽銭箱に入れる金額では足りないくらい、たくさんのお祈りしました。

昔と今とでは、形が違っているところも多くありますが、平佐西小の子供たちも、日本の伝統文化を十分に味わったことが、子供たちが話してくれる内容から伝わってきました。

「形が違う」といえば、先日、ニュースで、「お年玉を、PayPayなどのキャッシュレス決済に送金して渡す方法が少しずつ普及している」と報じられていました。時代は変わったな、と思うと同時に、大人が苦労して働いたお金のありがたさが、子供たちにどれくらい伝わるのだろうか、とも感じたところです。



さて、3学期です。54日しかない短い学期ですが、進学・進級に向けたまとめの学期です。

今の学級の友達や担任と過ごすこともあとわずかだということを心に留め、勉強、運動に励んでほしいと思います。

3学期も、一生懸命がんばる平佐西小の子供たちを応援しています。



大谷選手のメッセージ

大谷選手からグローブが平佐西小にも届き、子供たちが手に取るように学級ごとにまわっています。今回は、一緒に入っていたメッセージを紹介します。

学校関係者各位

貴校ますますご清祥の事とお慶び申し上げます。

ロサンジェルス・エンゼルス・オブ・アナハイムのメジャーリーガー、大谷翔平です。

この手紙は、このたび私が学校に通う子供たちが野球に興味を持ってもらうために立ち上げたプログラムをご紹介するためのものです。

この3つの野球グローブは学校への寄付となります。

それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。

このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からのこの個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。

この機会に、グローブの寄贈をさせていただけることに感謝いたします。

貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

野球しようぜ。

大谷翔平



【大切に使います】

居場所があ〜る・絆をつく〜る

毎年、12月になると、20歳を迎える卒業生が、「お休みのところすみませんが、タイムカプセルを開けさせてください。」という連絡を学校にしています。そのたびに、「当時の担任の先生はどなたですか。何時頃、来られますか。」というやり取りをしながら日時の約束をします。

しかし、今年は、19歳の青年からも電話がありました。最初は、1年勘違いをしているのではないかと心配しましたが、よく話を聞いてみると、3年生の時の新採の先生がみんな大好きで、そのときに10年後の1月7日に同窓会をしようと約束していたのでした。びっくりすると同時に、10年もの間、変わらぬ思いで慕われている担任の先生は幸せだろうなと感激しました。

1月7日当日は、3年2組教室に集まり、3年生の頃の思い出の品を並べたり、担任の先生を迎える飾り付けをしたりして、盛大に同窓会が開かれました。みんな嬉しそうで、担任の先生も子供たちの成長した姿に感動していました。

現在、教員は、ブラックなイメージが広がり、若者から敬遠される職業になっていて残念に思っていました。でも、この3年生の同窓会を見て、強い絆でつながることができる唯一無二の職業が教員であると、同じ教員として勇気をもらいました。どんなにAIが進歩してもなくならないのが教員であると言われていたそうです。学生時代に「教員として一番大切なことは、目の前の子供たちに惜みない愛情を注ぎ続けることだよ。」と教えてくださった恩師の言葉が、この年齢になって一層心に響きます。

2月の行事予定

- 6日(火) PTA役員会
- 10日(土) 新1年生保護者入学説明会
- 13日(火) なわとび集会(上学年)
- 14日(水) なわとび集会(下学年)
- 15日(木) 川内中央中体験入学・入学説明会(6年):川内中央中学校
- 16日(金) 幼保小連絡会
- 22日(木) PTA評議委員会

小中一貫教育活動〜ようこそ先輩〜

1月13日(土)の土曜授業では、6年生が、川内中央中学校の1年生とふるさと・コミュニケーション科で交流活動を行いました。

「薩摩川内市の未来について提言しよう」をめぐってSDG'sとの関連をもったテーマについて調べたことをプレゼンテーションにまとめる方法を卒業生から学びました。

この活動を通して、子供たちには、自分たちの力で世の中を少しでもよくしていこうとする気持ちを養ってほしいものです。

学年一斉には実施が難しかったので、同時進行で長縄の交流活動も行い楽しみました。

久しぶりに母校に帰ってきた卒業生の姿に、成長を感じました。



【先輩からのアドバイス】

大寒忌〜里見弴先生を偲んで〜

1月21日(日)は、本校ゆかりの里見弴先生の命日である大寒忌でした。それに向けて校内では、1月15日(月)から職員室前に大寒忌コーナーを設置すると、興味をもった子供たちが、本を手にしたたり、説明のボードを読んだりしていました。

3年生は、ふる・コミュニケーション科で慈眼観や里見弴先生について直接学習します。職員室前の大寒忌コーナーでは、担任の先生の説明を聞く姿が見られました。



【大寒忌コーナー】

入賞おめでとう!!

【第28回トンボロ芸術村コンテスト書道の部】

南国交通(株)賞 4年 長野 祐稟

里文化協会賞 5年 竹原 葵

KKB鹿児島放送賞 6年 鎌田 崇史

【令和5年度「家庭の日」標語の部】

努力賞 3年 中目 なず菜

【第42回全国児童画コンクール】

優秀賞 1年 中原 瑠菜